

『輝け雪』のまち

ぬまた町

みんなの議会

2025年11月
第103号



発掘! 未来の化石博士

10月26日 ヌマタネズミイルカ発見40周年記念講演会にて

- P2 第3回定例会 沼田学園タブレット更新事業ほか
- P3 議案に対する質疑
- P4 町政を問う 6名(8件)が一般質問
- P7 シリーズ検証 一般質問のその後 第5弾
- P8 議会カフェを開催
- P10 常任委員会の活動
- P12 決算特別委員会



沼田町議会 検索

令和7年 第3回 定例会

9月18日～19日

令和7年第3回定例会が開催され町長の一般行政報告および教育長の教育行政報告の後、6名の議員が8件の一般質問を行いました。また、今議会ではナイター議会も行われました。

令和6年度の一般会計・特別会計と水道事業会計のほか、今回から下水道事業会計の決算も加わり、決算特別委員会を設置して集中審査を行うこととしました。

上程されたおもな議案

以下の議案について、全会一致で承認しました。

- 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
- 沼田町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
- 沼田町行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例
- 沼田学園児童生徒用タブレット端末共同調達業務委託の請負契約
ほか3件

一般会計の補正予算

一般会計の予算総額に5億8831万円を追加し、予算の総額を78億8683万円とする補正予算を承認しました。主なものは以下のようになります。

■総務管理費

ふるさと納税額の増加に対応する諸経費と、
公用車ナビのテレビ受信料 545万円増

■道北バス沼田深川線運行準備補助金

来年4月運行開始に伴うもの 229万円増

■集落支援員活動費

203万円

■ふるさと納税関連費

返礼品とその発送経費 2億5000万円増

■沼田厚生クリニック損失助成金 5997万円

■定額減税補足給付金不足額給付事業

300万円増

■教育推進費

中学校の部活動送迎バス運行委託料
50万円増

特別会計の補正予算

下記の水道事業会計の補正予算を承認しました。

- 国道275号線共成地区配水管移設補償工事負担金 799万円
- 国道275号線共成地区配水管移設実施設計業務委託料及び移設補償工事費 2506万円



人事案件

次の2件の人事案件に同意をしました。

■教育委員会教育長の任命について

み うら つよし
三 浦 剛 氏 (再任)

■教育委員会教育委員の任命について

てら き か な
寺 木 佳 奈 氏 (新任)

意見書

下記の意見書提出を求める陳情を採択しました。

■国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

議案の質疑

提案された議案に対して、次の2件の質疑が行われました。

■個人番号（マイナンバー）の利用と特定個人情報共有に関して

大沼議員 土地所有者の情報を行政内で共有することは、個人情報保護の観点から問題は無いのか。

沼田町に住んでいない人の個人情報も共有できるようになるのか。

個人の財産をマイナンバーで管理することに妥当性はあるのか。

総務財政課長 役場内の情報共有であり、外部に情報が漏れることはありません。

沼田町に住んでいなくても町内に土地を持っている人の情報を、これまでは担当部署でしか共有できなかったが、マイナンバーを通じて役場内で共有できるようになります。

役場の業務内での個人情報共有は、法律に基づくもので問題はありません。

■沼田学園児童生徒用のタブレット端末の共同調達に関して

大沼議員 なぜ沼田町が業者との購入契約を結ばなければならないのか。

教育課長 北海道が一般競争入札を実施し、その結果に基づいて市町村が業者と個別に契約を結ぶ形式になっています。

この方式は全国的に補助金を活用してタブレットを導入する自治体が多い中で、スケールメリットを活かした費用削減、専門性やノウハウの確保を目的としています。

700万円以上の契約になるため議会の議決が必要になります。

久保議員 タブレットの使用状況はどうなっているか。再利用をどのように考えているのか。

教育課長 現在は小中学校で160台のタブレットが使用されており、数十台にバッテリーの劣化などの不具合があります。

既存のタブレットは学校の予備機としての保管や会議資料閲覧のような軽作業に限定した再利用を想定しています。

第4回 臨時会

10月17日に臨時会が開催され、以下の補正予算を承認しました。

■物価高騰対策事業費 1361万円増

■高齢者福祉費 50万円増

■介護支援費 44万円増

これらは、物価高騰に対して町民生活を支援するためのもので、一般家庭には1人あたり5,000円の商品券、老人ホーム入居者には特別な食事を提供するためのものです。財源には国の交付金やふるさとづくり基金が使われます。



町長、教育長への

一般質問



鵜野 範之 議員

企業誘致の状況とサポート体制は



横山 茂 町長

新たな視点で時代に合った企業誘致に取組みたい

鵜野

人口減少と高齢化が進む沼田町（現在約2700人、高齢化率49%）において、従来の企業誘致手法では中々進まないのではないかと、地域の実情に合った企業誘致のあり方をお聞きしたい。

町外の企業だけでなく、クラフトビール工場や自然学校、トマト事業など、地域の資源を活かした取り組みを行っている町内企業家の支援や、基幹産業である農業など強みを活かした多角的なアプローチが必要ではないか。

町長

インターネットを活用したホームマーケティングやオンライン面談による新たな活動を展開しており現地調査が行われています。

誘致企業3社からは沼田町にオフィスを設置したり、新社屋や工場を新設するなど、新たな雇用創出にもつながっています。また、ハローワークと連携した「ぬまわーく無料職業紹介所」や北海道労働局との雇用対策協定を通じた支援を行っています。

農産物、農業を意識しながら、地域の強みを活かした新たに産業創出に取り組みたいです。

若者が働きたいと思える環境づくりが必要で、沼田版シリコンバレー構想の一環としてローカル5Gのエリア設定を図り、通信を活用した実験や調査を行える地域にしていきたい。



長野 時敏 議員

透析患者交通費の助成と介護タクシーの実現を



横山 茂 町長

地域福祉実践計画に基づき制度を検討したい

長野

人工透析で町外へ通院する患者に年間7万円の交通費が助成されていますが、透析患者は週3回、年間140回以上の通院が必要であり、タクシーや送迎サービスを利用すると大きな経済的負担となるので、この金額では実際の負担と比べて少ないのではないかと。

人工透析患者交通費のさらなる助成や、後期高齢者などが利用しやすい乗り合い介護タクシーへの助成と、福祉送迎車両が必用であれば介護タクシー運転手の二種免許取得や車両購入の支援を行い送迎の負担を減らせないか。



町長

一般の交通手段の利用が難しいという方、あるいは経済的に負担が厳しい方などに配慮できるよう、乗り合い介護タクシーの可能性も含めて、町民が安心して生活できる体制づくりを総合的に検討したい。

社会福祉協議会では、地域住民が暮らし生きがいとともに作り、高め合うことができる地域共生社会を実現するために、第一期沼田町地域福祉実践計画というものを策定しています。

事業計画の中に福祉有償運送事業があり、テスト運行の結果を踏まえて、今後は社会福祉協議会や、民間事業者とも協議を重ね検討していきたい。



上野 敏夫 議員

産業まつりを農業産業大感謝祭へ

年々多くの来場者で賑わっている



横山 茂 町長

上野

「秋のにぎわい産業まつり」はイベントとしてマンネリ化しているのでもっと沼田町の豊かな農産物や特産品を活かし、町民全体が集まって楽しめるイベントにしてほしい。「沼田町農業産業大感謝祭」へと改名・刷新してはどうか。特に、沼田町産の米（雪中米）について、町民がいつでも購入できる体制が整っていないことや米価高騰による買いづらさを緩和するためにも、町民に対して特別価格での販売や試食会の実施をしてはどうか。



秋のにぎわい産業祭り

町長

産業まつりがマンネリ化しているとは考えていなく、昨年も2,790人の来場者がありました。各参加団体からの意見を取り入れながら毎年改善を図っており、賑わい創出と町外からの誘客、特産品の収穫を祝う目的で開催しています。

イベント会場において、新米のすくい取りやトマトを使った調理提供の試食ブースのほか、トマト加工製品を当日限定の特別価格での販売なども行っています。

沼ルシェとの同時開催や高校吹奏楽部の参加など工夫を重ねてきており、今年はファミリー層をターゲットにした新たな集客素材を導入する予定です。



久保 元宏 議員

エアコンを公営住宅に設置しては

公営住宅は課題が多く、公共施設を中心に整備したい



横山 茂 町長

久保

エアコン普及率が全国平均の94.4%に対して北海道は59%と低く、同じ気温でも熱中症で緊急搬送される割合が他地域より高い。沼田町では過去に30度を超える日が年間約10日だったが現在は30日以上に増加しており、エアコンの必要性が高まっている。

他自治体ではエアコン設置補助金制度が様々あり、沼田町でも同様の制度を検討してはどうか。また、「クーリングスポット」を役場や公共施設、商店などに設置し、熱中症対策と同時に高齢者の見守りや地域の活性化にも役立つ場所を提供してはどうか。

町長

近年の猛暑が健康と生活に深刻な影響を及ぼしていることは認識しています。公営住宅全戸（300戸超）へのエアコン設置には多額の費用がかかり、10年程度での買い替え、電気料金の負担増、民間住宅や持ち家居住者との不公平感などが課題です。

現在は猛暑対策として「ゆめっくる」を指定避難所施設の「クーリングシェルター」として指定しており、ホームページなどで利用を呼びかけています。今後は観光情報プラザや暮らしの安心センターなど公共施設などに整備を進めていきたいです。



三浦 実希 議員

青少年スポーツ文化基金の充実を

基金の周知方法と活用の充実を検討したい



三浦 剛 教育長

三浦

近年沼田町の子どもたちがスポーツや文化系の大会で素晴らしい成績を収め、全道大会や全国大会、世界大会に進出している。

町では青少年スポーツ文化振興基金から大会出場費や旅費を助成しているが、周知不足で多くの町民に認識されていない。基金の存在を周知し、分かりやすい寄付窓口の設置や広報活動の強化が必要ではないか。

直近の基金の寄付件数・金額、助成額と残高、今後の助成項目拡大について聞きたい。



教育長

沼田町青少年スポーツ文化振興基金は、平成19年に個人からの100万円の寄付を原資として創設され、令和6年度末現在の残高は232万2483円です。

今後の寄付受付方法として、「直接基金への指定寄付」「返礼品のないふるさと納税」「企業版ふるさと納税」の3つを検討しており、寄付者の意向に沿った基金特定の仕組みや税金の寄付金控除も含めて周知方法を検討したい。

また、栄養費などの助成項目の拡大については北空知の各市町の状況を踏まえて検討していきたい。



篠原 暁 議員

補助教材や学用品の保護者負担軽減を

私費備品のうち整備指針に該当するか調査したい



三浦 剛 教育長

篠原

小中学校における補助教材、実習費、行事費用などの保護者負担が増加し、少子化を加速させる一因にもなっています。文部科学省が本年6月に「学校における補助教材、および学用品等にかかる保護者等の負担軽減について」通知を出しており、整備に対して地方財政措置が講じられています。物価高騰が続いている中、算数セットや彫刻刀、裁縫セット等を学校備品として整備することで、保護者負担を軽減できないか。

教育長

本年の文部科学省通知を踏まえ、保護者が負担している補助教材のうち学校備品整備指針に該当するものについては公費負担を検討していきたいと思います。

ただし、ドリルやワークブックなどの消耗品は個人所有物として扱われており該当しませんが、授業で共用し繰り返し使用できる教材や機器類については学校備品として整備可能であり、必要に応じて公費による整備に切り替えていきたい。



シリーズ検証

第5弾

一般質問のその後

2023年9月 第3回 定例会



久保 元宏 議員

シン・町民体育館を町の拠点にしよう



横山 茂 町長



三浦 剛 教育長

財源を確保し、中学校体育館との複合施設を目指す

生涯スポーツの拠点にし、設立準備会の設置を検討

教育課より

★その後の対応

【スケジュール】

令和8年度から調査を開始。

【複合施設】

一カ所で複数のサービスが受けられる「利便性」や、交流人口の増加、経済効果で「地域活性化」、「世代間交流」、管理や運営費が抑えられるなどの効果が期待できます。現在、役場が優先しているのは中学校の体育館、避難所となる防災、生涯スポーツです。

【設立準備会】

学校と異なる目的をどう連携させるのか、関係者などの意見聴取を含めて検討を深めます。

【財源】

建設費の高騰で膨大な投資となる見込みがあり、文部科学省の補助金と、活用できる国からの交付金などを想定しています。

今回の傍聴者は午後の部1名、ナイターは2名でした



沼田町議会の定例会はライブ配信で！

スマホやパソコンのYouTubeを使って見ることができます。生中継なので議会の開会中にぜひご覧ください。もちろん議場で傍聴していただくが一番臨場感がありますが、役場ふれあいの1階ロビーにあるテレビでも視聴することができます。

YouTube再生回数
463回でした

議会改革調査特別委員会

町民とつながる議会を目指して、8月28日（木）18時～20時 暮らしの安心センター内のカフェコーナーにおいて「議会カフェ」を開催致しました。

テーマは「議員定数と議員報酬について」です。気軽な雰囲気の中で5名の町民の方々と懇談し、意見を聞かせていただきました。



議会改革調査特別委員会の経過

6月4日 第6回 議会改革調査特別委員会

- ・議会モニター・議会サポーターについて
- ・議会の活性化・議員の担い手不足・議員定数について

6月24日 第1回 議会モニター会議

- ・議会定例会の一般質問について
- ・議会改革の取り組み状況について

6月30日 第7回 議会改革調査特別委員会

- ・議会モニター会議報告について
- ・公聴会の開催について
- ・政策形成サイクルの導入について

10月9日 第8回 議会改革調査特別委員会

- ・議会カフェアンケートについて
- ・魅力ある議会について

退任議員との交流

10月14日、退任議員と現職議員のパークゴルフ大会を開催し、親睦交流を深めました。団体戦でも、退任議員の皆さんの正確なショットにはまだまだ勝てない現職議員でした。

この日は退任議員親睦会総会も行われました。

個人の成績	優	勝	津川	均さん
	準	優	山本	一男さん
	3	位	杉本	邦雄さん



開会の挨拶を述べる退任議員親睦会の杉本会長

未来の主権者をつながる

中学生議会を開催しました

10月31日、町議会議場において沼田中学校の3年生15名による中学生議会が行われました。

生徒たちは3つのグループに分かれて質問を練り上げ、横山町長に質問と提案をしました。



議長役の矢野桜誠さん

各グループの質問内容



人口問題について

高橋杜安さん、後藤銀太さん、本郷真聖さん
吉村侑輝乃さん、長田彩李さん

- ① 駅周辺に駐車できる場所を作ることは可能か。
- ② 冬にイベントを開催することは可能か。
- ③ 今後沼田町は、イベントを増やしていく方針なのか。



駅の活用方法について

石黒立さん、伊藤李紗さん、高橋隼さん
藤田滯奈さん、松尾奏佑さん

- ① インパクトの強いマスコットキャラクターを新たに作ることはできるか。
- ② 町民の意見を聞いて、使いそうな施設を増やすことはできるか。



沼田町の施設の活用について

神山墨さん、林ゆずなさん、山下芽夏さん

- ① ゆめっくるにいつでも勉強できる場所を作ってほしい。
- ② 田島公園に遊具を設置し、定期的な草刈りを行って遊びやすい公園にしてほしい。

総務民教建設常任委員会

所管事務調査項目「自然エネルギーの活用」

総務民教建設常任委員会は、11月4日と5日の2日間で胆振の厚真町と後志のニセコ町を視察しました。どちらも自然エネルギー活用の先進地ですが、それぞれ違った角度から自然エネルギーを活用してゼロカーボンの町を目指していました。

1日目に訪れた厚真町は、2018年の胆振東部地震で大きな被害を受けた町です。でも、役場のある市街地は今では震災の爪痕は感じないほどきれいに整備されていました。

説明会場に入り大沼委員長が冒頭の挨拶を述べ説明会が始まりました。担当者から震災での教訓を活かして太陽光発電と蓄電池を組み合わせ、災害時には避難所に電力を供給できる仕組みを構築した経緯について詳細な説明がありました。

厚真町の特徴的なことは、バイオマス発電にも取り組んでいることです。木材チップを燃やして発電する設備ですが、燃料の木材確保が困難で撤退する自治体もある中、厚真町ではあえて小規模な装置で持続可能な発電を行っていました。

バイオマス発電で取り出せる電力は20%ほどしかないのですが、発電装置で発生する電力と廃熱を隣にある2棟のハウスに供給して民間業者がイチゴを通年で栽培していました。

燃料となる木材チップは町内の山林から供給されるので、これを「エネルギーの地産地消」と呼んでいるそうです。

2日目に視察したニセコ町は、ゼロカーボン宣言の下で2050年に2015年比で温室効果ガス排出量を86%削減する目標を掲げています。そのために積極的に太陽光発電に取り組む一方で、メガソーラーなどの行きすぎた開発を防ぐためにしっかりと規制する条例も制定しています。

2021年に竣工した役場庁舎は、全国の行政庁舎でトップクラスの省エネ性能を誇る建物で、高断熱窓など随所に工夫が施されていました。さらに、現在は屋上へのソーラーパネルの設置工事を行っているそうです。沼田町と同じくニセコ町も豪雪地ですが、冬場の2.3mの積雪にも耐える性能を持つパネルを平面設置にする計画のようです。

説明を受けた後、毎月の光熱費がわずか1万円という民間の集合住宅を見学しました。屋根にソーラーパネルが設置されているので冬季は発電が望めませんが、年間を通して計算されています。また、共同で使える電気自動車も配備されていました。



挨拶を述べる大沼委員長



バイオマス発電を見学



ニセコ町の取り組みを聴く



省エネ集合住宅を背景に

産業福祉常任委員会

所管事務調査項目「高齢者福祉施設の将来像について」

10月27、28日に「広尾町立特別養護老人ホームつつじ苑」と「足寄町立特別養護老人ホームあゆみの園」を視察しました。どちらも開所から50年ほど経過して故障や災害対応等が必要となったことが契機となり、施設建設の検討を重ね、令和7年度の新築開設となりました。

十勝においては高齢化率が41%と低く入所者の減少が続き、通常の特別養護老人ホームから入所者定員29名以下の地域密着型特別養護老人ホームとして開所しました。

広尾町つつじ苑では、ユニット型全室個室で冷暖房加湿器完備の快適な施設でした。新エネルギー対応施設として、太陽光パネルと地中熱システム活用床暖房で歳出経費を削減していました。また病院や民間介護ケア業者、障害者施設を含め福祉施設が同エリアにあり、広尾町国保病院と渡り廊下で直結され、迅速な対応が可能になっていました。総工費は13億7000万円です。

足寄町あゆみの園は、地元特産のラワンぶきをモチーフにした中央の大屋根が特徴的で、デイサービス棟も併設された地域密着型ですが、ユニット型個室と多床型を合わせ入所者定員55名の大きく二つにエリア分けした大規模施設でした。木質バイオマスエネルギー熱源のチップボイラーと太陽光パネルでCO₂削減の対策をしていました。また町内に福祉ゾーンとして関係福祉施設が集約され、連携がスムーズに行われていました。総工費は28億900万円です。

どちらの施設もICTセンサーベッド、情報共有ナースコールや言語音声入力健康管理システム、見守りカメラなどを導入し、介護職員が「走らない・大声を出さない」ケアを実現させていました。

入居者・家族・職員の幸せを基本理念として、環境負荷の軽減や最新DX活用で創意工夫がされており、今後の参考となる施設でした。



挨拶する伊藤委員長



つつじ苑の玄関ホール



あゆみの園で内部を見学



メインホールの絵をバックに撮影

決算特別委員会

令和6年度予算の執行状況と事業の実施内容を審査する決算特別委員会を10月16、17、20日の3日間で開催し、一般会計、特別会計、水道事業会計、下水道事業会計の各歳入歳出決算を審査の結果、認定を決定しました。



委員長 伊藤 淳
副委員長 篠原 暁



各課への主な質疑

総務財政課



ふるさと納税で基金が積みあがっているが、基金の中長期的な活用計画はあるのか。

久保議員

答 計画はまだないが、町長の政策に沿って予算を組んでいきたい。

総務財政課



行政区などに割り当てられる役職を整理できないか。

上野議員

答 各課において必要な役職もあるので、意見があったことを伝え、検討したい。

産業創出課



旧中学校跡地のあるくらす団地構想が中断している理由は。

鶴野議員

答 当初は、高齢者用の公営住宅を4棟20戸で計画していたが、直近のアンケートで希望が少ないため延期している。

農業推進課



スマート農業の補助制度では、対応する機械などの審査をどのように行っているのか。

畑地議員

答 スマート農業技術カタログに該当する機械を補助対象とし、中山間協議会で協議している。

旭寿園



物価高騰で経費がかさむ中、収入となる国からの介護報酬増加の見込みは。

大沼議員

答 現在、変化もなく、介護報酬の制度改正も先となる見込みであるが、北海道を通じて要望を上げている。

教育委員会



小中学校のWi-Fi環境改善は出来たのか。

三浦議員

答 電波の調査を行い、機器の更新及び追加により安定化した。

保健福祉課



補聴器助成事業は所得制限のない町もあるが、同様な対応は出来ないか。

篠原議員

答 所得制限を要綱で定めている。低所得者に対する支援として引き続き検討していきたい。



令和6年度決算を全会一致で認定

■令和6年度 沼田町一般会計決算額

歳入総額	71億9954万円	(58億3882万円)
歳出総額	70億8303万円	(57億622万円)
収支差額	1億1651万円	(1億3259万円)
基金残高	43億3260万円	(34億3188万円)

() は前年度決算額



町長への総括質疑

○ 「空知自然学校は、抜本的な責任体制の再構築が必要ではないか」



久保元宏
議員

そらち自然学校の運営に理事者がどこまで関与し、協力隊員の活動を把握しているのか。町は設立した責任として組織体制が円滑に機能するように見直す必要があるのではないかと。



横山 茂
町 長

今年の春に運営体制や協力隊が入れ替わり新体制となりましたが、稼ぐ力を作り出し、学ぶ、生きる力を養う重要なものと考えていますので、しっかりと運営を進めていただけるように細かなサポート体制を整え取り組んでいきたい。



畑地 誉
議員

新体制となったことから、当初の計画や推進イメージの軌道修正が必要と感じる。また、人材の育成と確保についての考えは。



横山 茂
町 長

新たな役員との懇談はまだできていないが、現状を把握したうえで修正内容について提示していきます。各分野で活躍してきた協力隊員の方々に、発信力を強めていただきここで働いてみたいという組織作りに町も努力していきます。



上野敏夫
議員

自然学校としての成果があまり見えないと思うが考えはどうか。



横山 茂
町 長

森づくり活動を基本に行っており、実際にこの自然学校で自然や動物に触れあう体験によりお子さんが心を開いてくれたという事例もあります。ここで子育てをしたいという環境にしていけると思っています。

決算への意見

■ 「そらち自然学校」の体制強化と意思疎通

運営責任者と現場スタッフの意思疎通の場に沼田町も関わることで体制の強化を図るとともに、ロードマップを再構築することが必要です。

「そらち自然学校」が持続可能な事業を展開するためにも備品などを有効活用できるように、幌新地区魅力創造マイスターとも協力をしながら稼ぐ力を発揮することを望みます。

みんなの広場

ヌマタネズミイルカの発見から40年を記念する講演会に参加していた沼田小学校2年生の川村碧さんに、公演終了後にインタビューをしました。

今回の講師は福井県立恐竜博物館の一島啓人博士です。

講演会には20名ほどの参加者がありましたが、その中で最前列に席を取り熱心に聴いていた男子がいました。それが今回インタビューをした川村碧さんでした。

Q：化石に興味を持つようになったきっかけは。

A：化石体験館に何度も遊びに来て、ミニ発掘をやっているうちに化石に興味を持ちました。今ではコレクションもたくさん集まり、専用の箱に入れていきます。

Q：コレクションの中でお気に入り化石は。

A：アンモナイトです。10個以上あります。何が出るかわからないのが楽しいです。

Q：今日一番おもしろかったことは。

A：ヌマタネズミイルカの頭の骨の話です。頭の骨がまっすぐではなくて横に曲がっているというのがおもしろいと思いました。

ここからは川村ファミリーが一島先生を独占して質問コーナーの延長戦が始まりました。



右から一島先生、碧さん、そしてご家族の皆さん。

碧さん：骨が曲がっているのに頭の肉は曲がっていないのですか。

一島先生：とてもいい質問ですね。じつは、動物は肉の部分が先にできて、その中の骨は後からできるのでヌマタネズミイルカも頭の肉の部分が左右同じではなくて曲がっていたと思います。それに合わせるように骨が作られるので曲がった形の頭の骨ができたということです。

延長戦を終えてすっかりヌマタネズミイルカに詳しくなった碧さんは大満足の様子でした。最後にご家族の皆さんで一島先生と記念撮影をして終わりました。碧さんには将来化石研究の道に進んで、沼田町の化石を研究してほしいと感じました。



イルカの頭について説明をする一島先生



「憲政史上初」と形容される女性総理大臣が誕生しました。民主主義の先輩であるアメリカでも実現しなかったガラスの天井が破られたわけです。期待の大きさを反映して内閣支持率も高止まりしています。臨時国会が始まりましたが、国民が最も望んでいるのは物価高対策でしょう。今年の参議院選挙では与野党問わず消費税の減税を公約した議員がいたはず。外国人を排除しようとする勢力が台頭しているのも気がかりです。農業や介護など外国人頼みの分野は沼田町にもありません。一方、外国企業による違法な開発が問題化しており、これには警戒が必要です。冬の始まりに地元での生活と国の動きが密接につながっていることを実感しました。

広報特別委員

篠原 暁 三浦実希
畑地 誉 伊藤 淳